

<b>道徳科</b> <b>1年C組</b>	<b>みんな みんな たいせつ</b> <b>「ぼくのしろくま」</b>	<b>田中 千映</b>
---------------------------	---	--------------

## 1. 単元について

1学期は、学校・学級に慣れることを目標に取り組みを進めてきた。子どもたちは、入学当初に比べると、学校・学級に慣れ、友達と楽しそうに学校生活を送る姿が見られるようになっている。しかし、低学年の特性である自己中心性の強い子どもも多く、自分本位の行動や言動により、友達に嫌な思いをさせてしまうこともよくある。

この時期の子どもたちにおいては、「おいしくご飯が食べられる」「学校に来てみんなと学習や生活ができる」などの「生きている証」は、当たり前のもので、見過ごしがちである。この単元で家族の思いや、動植物の愛おしさ、自分の存在やよさを改めて考えることを通して、生命そのもののかけがえのなさに気づき、自分だけでなく他者（動植物も含めて）も大事にしたいという心情が育つと考える。そうすれば、互いの存在を大事にし合うことができ、友達と一緒に、より心地よい学校生活を送ることができると思う。

## 2. 単元設定の理由

### (1) 本実践の主張点

- ・生活科や国語科と道徳科を関連させることで、自己の経験と教材を重ね合わせながら考えることができるであろう。
- ・単元目標を支える価値を関連させて取り上げることにより、生命そのものや互いの存在のかけがえのなさに考えを深めたりすることができるであろう。

本単元では、生活科「いきものとなかよし」「ひろがれえがお」や国語科「ずうっとずっとだいすきだよ」の学習と関連させながら進めていく。特に、道徳科「ぼくのしろくま」「ハムスターのあかちゃん」の教材は、飼育するという経験が、教材の主人公と重なり、考えを深めやすくするであろう。また、生活科「ひろがれえがお」で、お家の人から自分の頑張りをほめてもらったり、喜んでもらったりした経験が、道徳科「ぼくはちいさくてしろい」の教材の主人公の気持ちを考えることにつながっていくであろう。

一方、自然愛護の教材からスタートし、生命尊重と個性伸長の教材をつなぐことで、生命そのものや互いの存在のかけがえのなさに深まりをもって考えていくことができるだろう。

### (2) 教科提案とのかかわり

「よりよい生き方」について考えを深める道徳科 ～可視化・共有化を充実させることで～

道徳科の授業で話し合い考えたことが、すぐに実践意欲と態度に結びつきにくいことが多いが、昨年度の他教科他領域と関連させた取り組みにおいて、道徳科の授業で話し合い考えたことが、子どもたちの実践意欲や態度につながった。本年度は、道徳科としての1時間の中で「よりよい生き方」について考えを深めさせ、実践意欲や態度をより高めることにつなげたい。

道徳科では、「問い続け、学び続ける子どもたち」の姿を、友だちと考えを交流しながら、自分なりの「よりよい生き方」について考えを深めようとする姿としている。特に、低学年では、自己の経験と重ね合わせて生き方について考える子を「問い続け、学び続ける子どもたち」のめざす姿とする。

また、道徳科で身に付けさせたい資質・能力及び態度ともの見方・考え方は以下である。

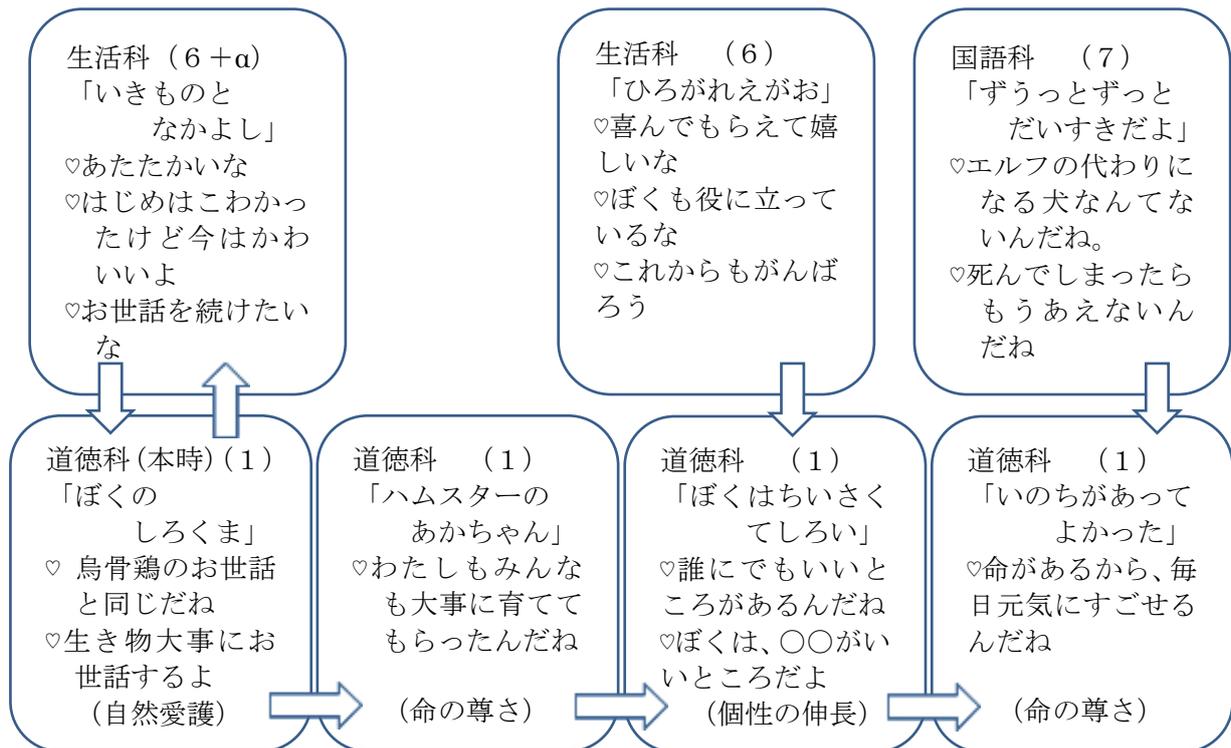
めざす力	つなぐ力	実感する力
自己を見つめ、自己の生き方について考えを深めようとする力	自己の経験や友だちの考え、これからの自己の生き方を関連させながら考える力	生活の中で、問題場面にであったときに、よりよい判断や行動ができる力

本単元では、生活科「いきものとなかよし」「ひろがれえがお」の活動の様子の写真や作文、お家の方からのメッセージなどを掲示し、道徳科の教材とこれまでの自己の経験とを重ね合わせながら考えられるようにし、それらを学級全体で共有できるようにしていきたい。また、子どもの表情をみとったり、つぶやきを大事にしたりしながら、子どもたちが、自分なりの言語化や動作化をすることで、考えを表出できるようにしたい。

### 3. 単元目標

生きていることに喜びを感じ、生命を大切にしようと思う心情を育てる。

### 4. 単元計画（全23時間+α 本時7時間目）



### 5. 本時について

本時は、教材「ぼくのしろくま」を使って考える。子どもたちが、生命について考え始める第一歩としたい。がりがり、ぼくが思い描いていた「しろくま」とは程遠いねずみみたいなこねこの世話を通し、共に生きていることの愛おしさを感じ、生き物を大事にしたいなと思える心情を育てたいと考える。世話をし、だんだん愛おしくなっていくという気持ちは、実際に動物の世話や飼育をすることを通して、実感を伴ってくるものである。そこで、生活科「いきものとなかよし」の学習で、鳥骨鶏の世話を継続的に取り組み、その時の実感と重ね合わせながら考えることができるようにしたい。「わたしも、このぼくと同じで、鳥骨鶏をお世話していたらだんだんかわいくなってきた」という自分の経験や「〇〇君はそんな気持ちでお世話していたんだ」という友達の経験と、ぼくのこねこに対する気持ちを重ね合わせながら考え始めたところを学びの深まりと考える。